



7.12 白川出水

平成24年7月 九州北部豪雨

速報版



国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所

〒861-8029 熊本市東区西原1-12-1

TEL. 096-382-1111

FAX. 096-382-4253

HPアドレス

携帯電話用アドレス

E-mailアドレス

<http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/>

<http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/mobile/>

kumamoto@qsr.mlit.go.jp

白川流域の特徴

白川は流域面積の約8割を阿蘇カルデラが占め、阿蘇外輪山の切れ目である立野付近で黒川と合流した後、中流部の豊かな穀倉地帯を流れ、下流部では九州第3の都市である熊本市の市街部を貫流し、有明海に注ぎます。

源	熊本県阿蘇郡高森町阿蘇根子岳
流域面積	480km ² (九州 14 位)
幹川流路延長	74km (九州 9 位)
大臣管理区間	17.3km (ダム管理区間を除く)
流域内市町村	2市3町2村(2012.4.1現在) 熊本市、阿蘇市、菊陽町、大津町、高森町、西原村、南阿蘇村
想定はん濫区域内人口	約 31 万人 (九州第 2 位)
想定はん濫区域内資産	約 5.2 兆円 (九州第 2 位)



阿蘇カルデラ（南阿蘇村）



中流域の穀倉地帯（菊陽町）



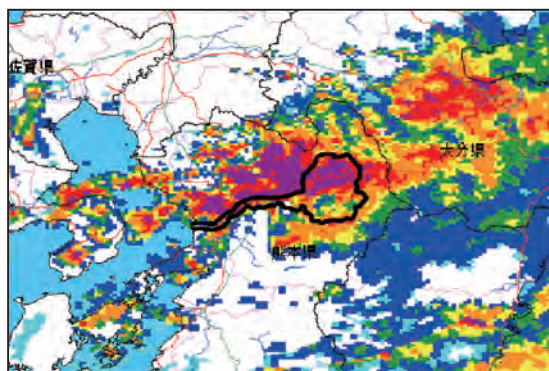
熊本市 中心市街部

気象概要

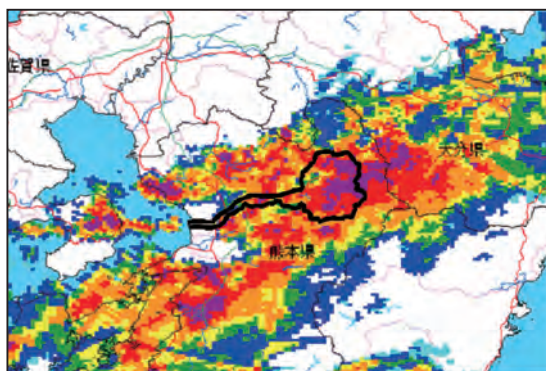
平成24年7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部では記録的な豪雨となりました。

11日の降り始めから12日24時までに、国土交通省の坊中観測所では観測された最大1時間雨量が124mm、最大3時間雨量が315mm、総雨量517mmとなり、短時間に記録的な大雨となりました。

白川流域にある他の雨量観測所（湯ノ谷、内牧）においても、観測史上最多の短時間雨量（1時間、3時間）を記録しました。



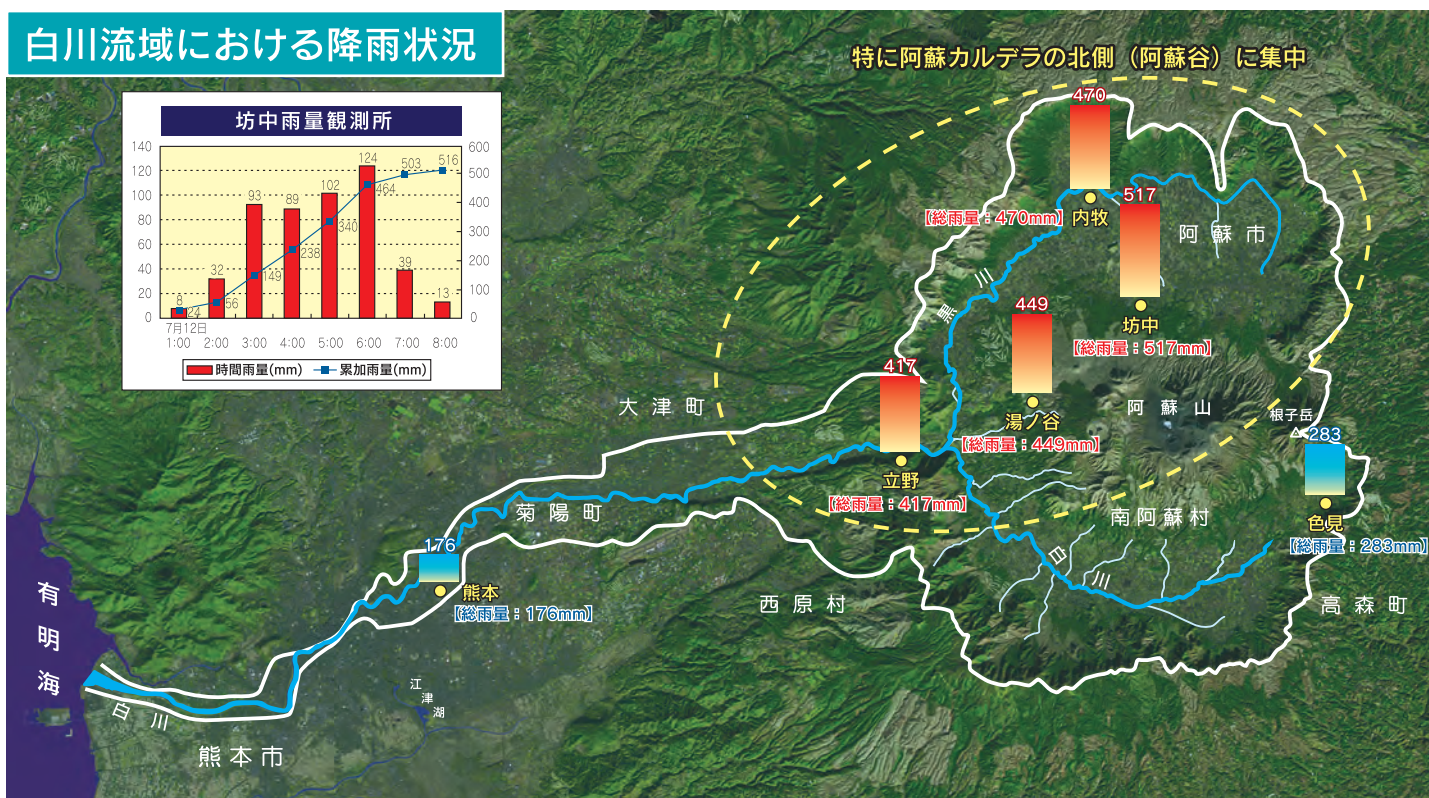
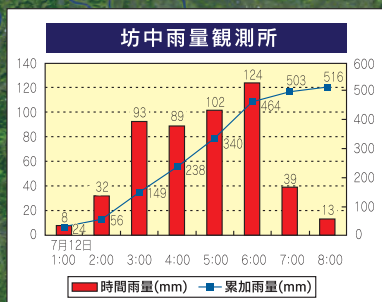
7月12日【3時のレーダ雨量】



7月12日【6時のレーダ雨量】

雨量凡例	
■	100mm/h～
■	～100mm/h
■	～50mm/h
■	～20mm/h
■	～10mm/h
■	～5mm/h
■	～1mm/h
□	0mm/h
■	欠測

白川流域における降雨状況

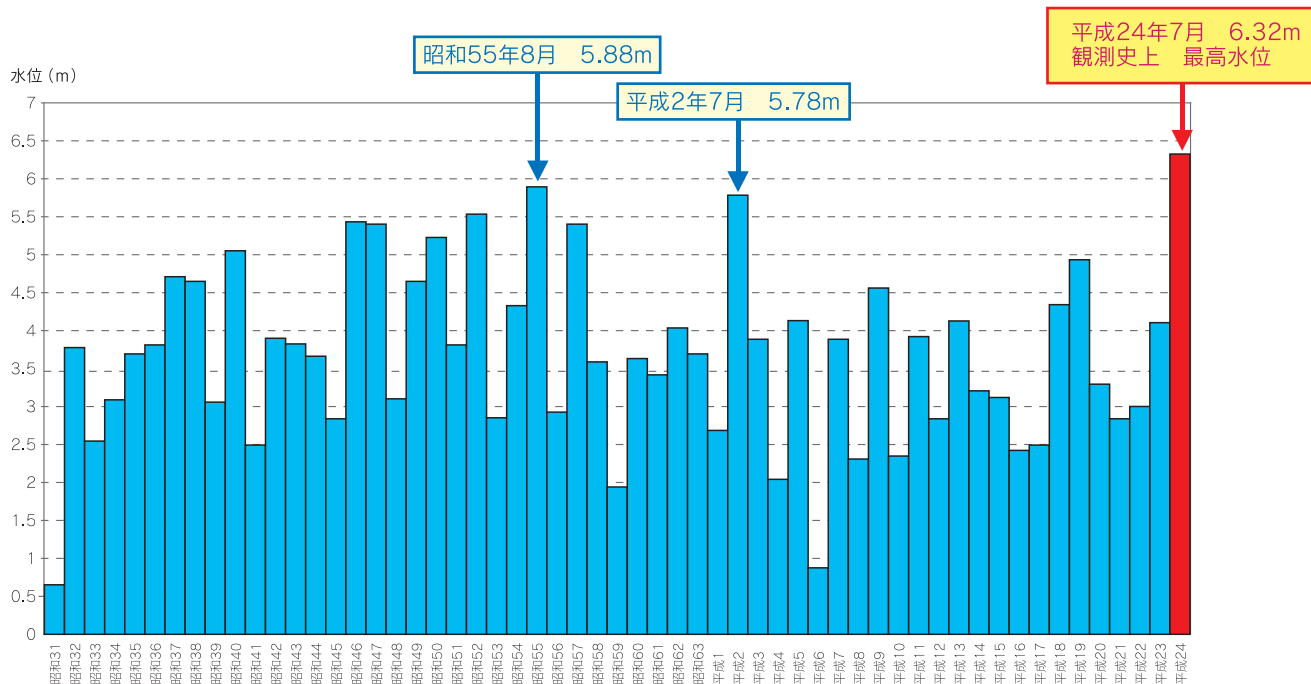


出水概要

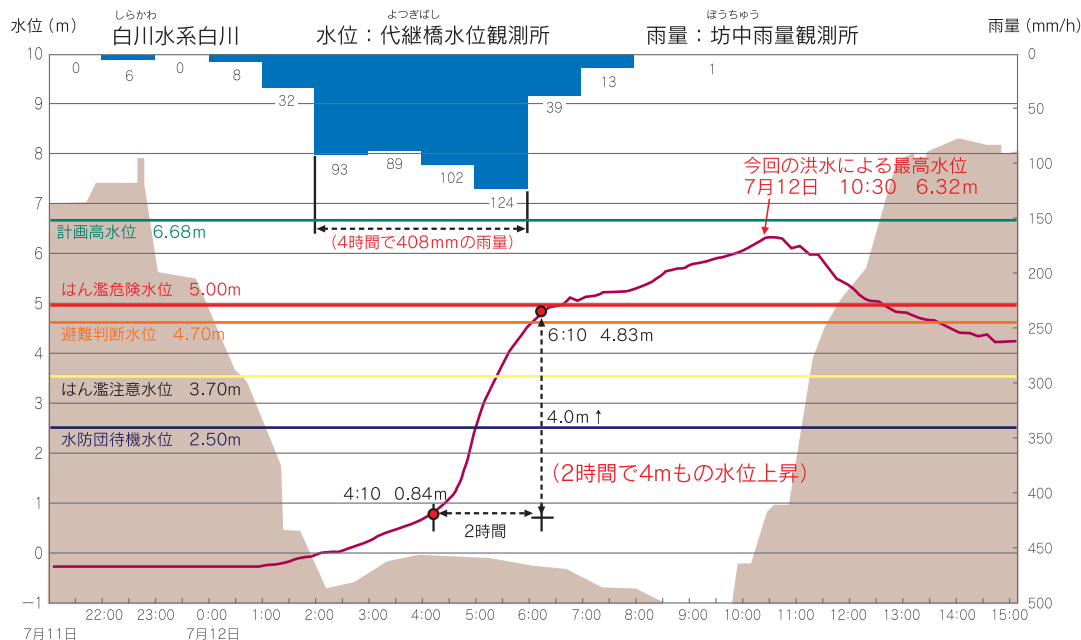
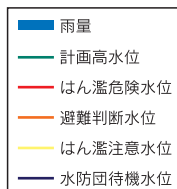
7月12日10時30分に白川の代継橋水位観測所（熊本市）において、観測開始（昭和31年）以降、6.32mという最高水位を記録しました。この水位は、これまでの昭和55年8月出水時の5.88mを遙かに超え、計画高水位6.68mまであと約30cmのところまで達しました。

白川の上流部にあたる阿蘇地域において、3～4時間の短時間に累積雨量300～400mm以上の非常に激しい雨が降り続いたため、下流部の急激な水位上昇を引き起こしました。代継橋水位観測所では、12日4:10～6:10に0.84mから4.83mと2時間で約4.0m水位が上昇しました。

白川（代継橋水位観測所）における年最大水位比較図



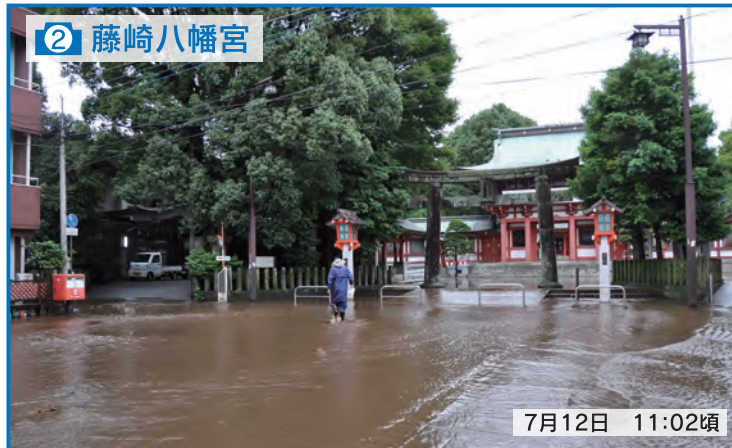
雨量と水位の状況



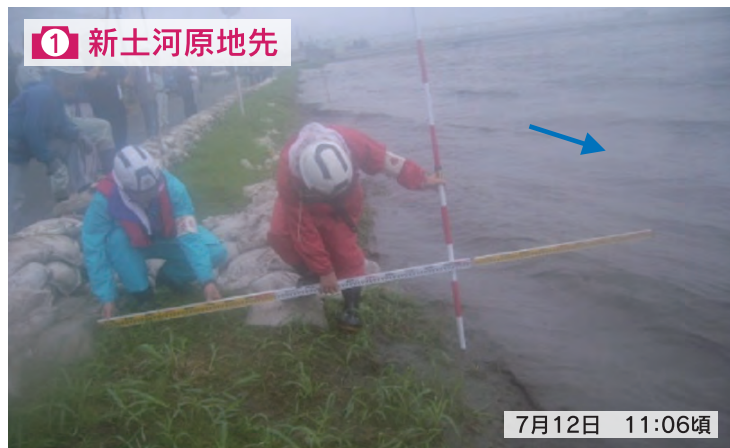
最大流量
約2,300m³/s

※本資料の数値は、速報値及び
暫定値であるため、今後の調査で
変わる可能性があります。

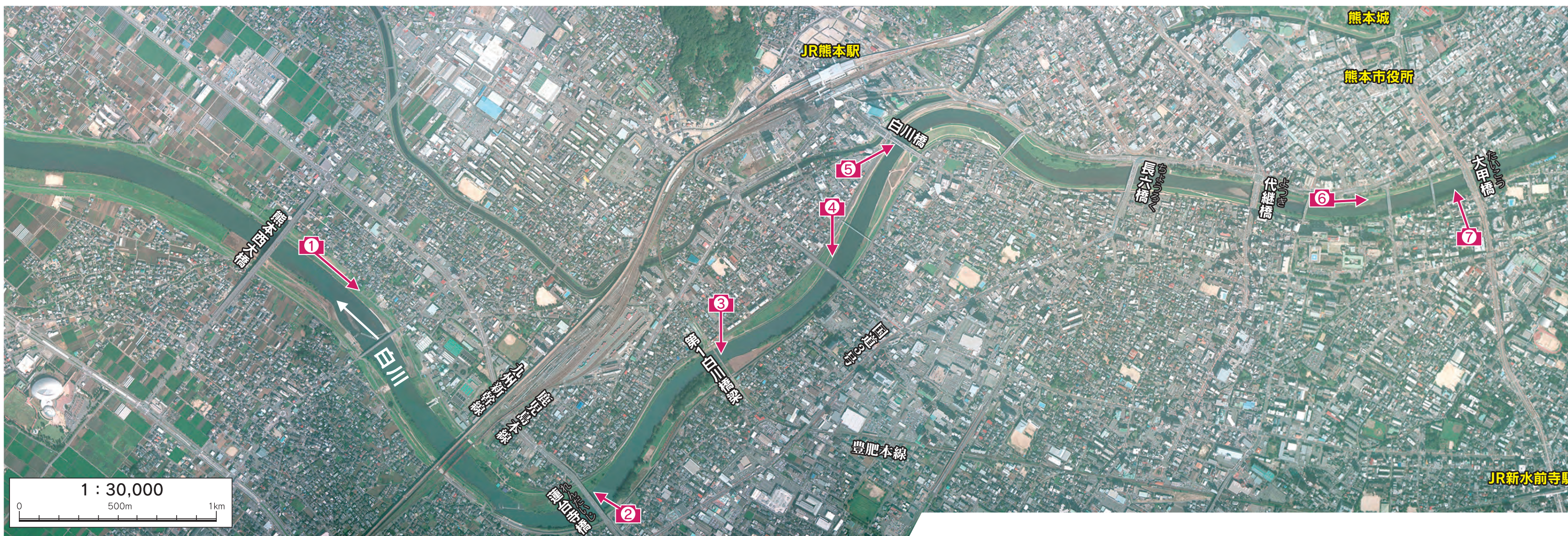
出水状況（国管理区間：上流）



出水状況（国管理区間：中流）



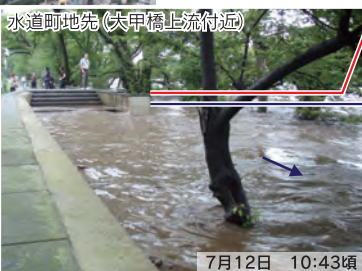
蓮台寺橋付近や熊本西大橋付近では、堤防ぎりぎりまで水位が上昇。



堤防が整備されていない代継橋から大甲橋の右岸では、水防活動による土嚢積みにより、なんとか中心市街部へのはん濫を防ぐことができました。

白川における河川改修の効果

平成24年7月の九州北部豪雨では、小碓橋から明午橋の間ではん濫被害が発生しました。明午橋から下流においても、これまでの堤防整備や水防活動による土囊積みにより、何とかはん濫被害を防ぐことができました。



▽整備後堤防高 TP.約15.9m
(整備前高さ TP.約14.5m)
▽今回の洪水痕跡 TP.約15.6m
(パラペット天端より約30cm下)

*TP.=東京湾平均海面水位

新聞記事

渦巻く白川「怖い」

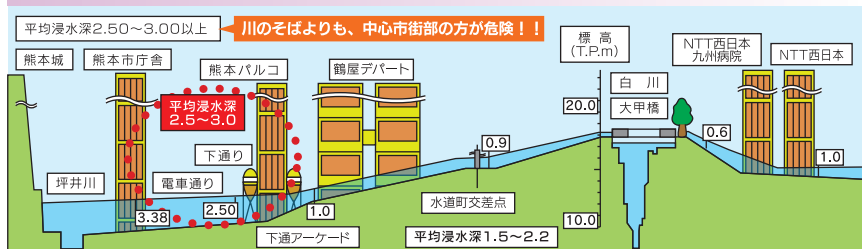


へりで住民救出
「もう今の場所住めない」
熊本市北区稲田



熊本日日新聞(朝刊)
H24.7.13(金)

白川の断面と昭和28年の水害の浸水範囲



大甲橋上流においては、堤防の高さ付近まで水位が上がっており、平成22年に高さ約2mの堤防を整備していたため、はん濫被害を防ぐことができました。出水時の白川は周辺の地盤よりも高い位置を流れている「天井川」であるため、仮に堤防が完成していなかったら、熊本市中心市街部において、はん濫被害が発生したと想定されます。

白川水系(県管理区間含む)の浸水被害状況

今回の豪雨により、県管理区間においても家屋浸水・護岸損傷等の甚大な被害が発生し、特に阿蘇地方に被害が集中しました。



■被害状況

※平成24年11月20日現在

凡 例	
	浸水区域

家屋	浸水面積		約2,353ha
	全半壊	183戸	
	床上浸水	2,011戸	
	床下浸水	789戸	
	計	2,983戸	



※上記資料は、熊本県からの提供資料を一部加工したものです。